



1853年阿蘇のおぐに小国に一人の医学者が生まれました。名前は北里柴三郎きたさとしばさぶろう。のちに近代医学の父と呼ばれた偉人です。

## 北里 柴三郎 (1853-1931)

## Kitasato Shibasaburo



「学校法人北里研究所」提供

熊本医学校でオランダ人医師のマンズフェルトに出会い医学の道へ。

東京大学でドイツ医学を学んだ後、ドイツのローベルト・コッホのもとへ留学。ここで破傷風菌はしょうふうきんの研究に取り組み、血清療法けつせいりょうほうを生み出しました。

帰国後、世界で初めて赤痢菌を発見した志賀潔しがきよしや黄熱病の研究を行った野口英世のぐちひでよなど、多くの細菌学者を育てました。



▲北里柴三郎の生家(小国町)



▲北里文庫(小国町)

●北里柴三郎は幼い頃、どんな子どもだったのでしょうか。

Kitasato Shibasaburo lived at his relative's house. His uncle taught him how to study.

His aunt showed him how to clean and said, "Clean the porch every day."



・relative 親戚

・taught 教えた  
・how to ~ ~の仕方  
・showed 見せた

・clean (～を)そうじする  
・porch えんがわ

●ある日、柴三郎はえんがわをふき、「もう、これくらいでいいだろう。」と思って遊びに出ようとしてしました。すると「もう一度ふいておくれ。」と、おばさんに呼びとめられました。



He cleaned the porch every day after he studied.

Day by day, the porch became shiny, so Shibasaburo became happy.

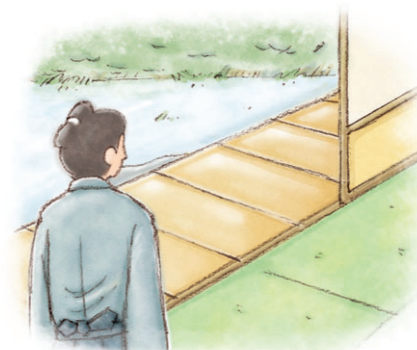
・day by day 日ごとに

・became ~ ~になった  
・shiny 光る

●2年たって、柴三郎が自分の家に帰る日がきました。

It snowed on that day and it was cold, but he cleaned the porch as usual.

After he cleaned, he looked at the shining porch.



・as usual いつものように

・shining 光っている

### After Reading

●柴三郎は、光るえんがわをじっと見つめながら、どんなことを考えていたと思いますか。みんなで考えてみましょう。

どんなことを  
考えていたのか  
気になるモン

